

イラク



子どもたちと地域に 平和の場を届けたい

現地パートナー団体INSAN(インサーン)と共に、子どもたちが民族や宗教の壁を越えて交流しながら平和共存を学ぶ「子どもたちの平和ワークショップ」を軸にコミュニティを支援する活動を2009年にキルクーク市にて開始。15年からは避難民の子どもたちも受け入れ、精神的に傷ついた子どもへのケアも加えた「ピースヤード(平和のひろば)」を実施してきました。参加した子どもたちは730人にのぼります。資金的な厳しさや、治安上の理由から現地入りが難しいことに加え、JVCの事業見直しによりこの活動は終了します。



平和ワークショップに参加する子どもたち



世界中に、平和で幸福に満ちた社会
が生まれることを願っています。

現地パートナー団体のアリー・ジャバリ代表からのメッセージ

[活動概要]

イラクでは新型コロナウイルス感染拡大のため2020年3月から断続的に外出規制が続き、9月中旬に解除されました。9月15日から2カ月間、紛争で傷ついた子どもたちの居場所づくり・心のケア・平和共存を学ぶ場として「ピースヤード」を実施し、6~13歳の子どもたち36人が参加しました(アラブ系12人・クルド系18人・トルコ系6人、女子17人・男子19人)。

参加人数を従来の約半分にし、マスク着用で距離を取るなどの感染防止策を採り、コロナウイルスについての知識や対策も伝えました。また、過去10年間の活動を振り返るために、①過去の参加者の保護者・地域の人々からの聞き取り調査 ②これまでの活動の記録および平和構築の概念を広く伝えるためのビデオ制作を行っています。

実施協力団体：INSAN Iraqi Society (インサーン)

[活動地で生まれた変化]

治安が悪く、さらに外出規制により閉塞感が広がる中、安心して過ごせる環境を作ることによって、子どもたちは少しずつ心の安定や自己肯定感を取り戻し、笑顔が見られるようになりました。また、心のケアのプログラムの結果、周囲に関心を示さなかった子や落ち着きのなかった子の状況に改善が見られました。

学校は民族別の構成でふだん出会う機会の少ない中、さまざまな背景を持つ子どもたちが知り合い、体験を共有しながら相互理解を深め、民族や文化の違いを超えた「共生の芽」が芽生えています。過去にこのプログラムに参加した子が成長し、平和のための活動や学びに取り組む事例も複数出てい

ます。

保護者や地域の人々にも紛争解決や平和構築の基本的な考え方を伝え、共生への理解を広げました。民族や宗派、出身地などが異なるためにふだん知り合う機会がない人々が出会い、新たな関係を作り、共生に向けた話し合いも始まっています。



「ジーニーになろう」というアクティビティ



みんなで「ピースツリー(平和の木)」をつくる

パートナー団体紹介

INSAN Iraqi Society (インサーン)

多様な民族が暮らし、歴史的経緯と埋蔵資源(石油)の利権がらみで民族間の対立感情が厳しいキルクークで、2003年から活動するイラク人による団体。住民間の緊張緩和と平和醸成のための活動や国内避難民支援を実施。

活動に関わった方のおもい

過激派組織ISとの戦闘が人々、特に子どもたちに与えた影響は甚大です。国際的な関心の低下・国内の政情不安定・新型コロナウイルス感染拡大の影響などにより状況は厳しいですが、これからも支援を続けていきます。

現地 NGO「INSAN (インサーン)」代表
Aari Najmuldeen Mohammed Jabair
(アリー・ジャバリ氏) 48 歳